

別記様式（第2条関係）

会議結果報告書

令和4年11月10日

会議の名称	政策推進会議
開催日時	令和4年10月20日（木） 13時30分～15時00分
開催場所	3階 庁議室
出席者職氏名	〔担当部課〕 中森都市整備部長、滝田都市計画課長、園原都市計画課主幹、 福永都市計画課主任 〔政策推進会議メンバー〕 櫻井副市長、村山総合行政部長、豊島総務部長、松永市長公室長、 尾崎人事課長、外立財政課長、松田政策推進課長 〔関係部課〕 中村福祉部長、的場共生社会推進課長、山木共生社会推進課主査、 櫻井共生社会推進課主事 <p style="text-align: right;">（計15人）</p>
欠席者職氏名	<p style="text-align: right;">（計 0人）</p>
説明員職氏名	福永都市計画課主任、櫻井共生社会推進課主事 <p style="text-align: right;">（計 2人）</p>
議 題	交通政策について
結 果	ふれあい号は廃止、デマンド交通は料金の見直しを行う方向で調整を進めていく。
事務局職員職氏名	渋谷政策推進課主席主幹、柴谷政策推進課主査
その他必要事項	

会議内容の記録（会議経過、結論等）

1 開会

松田政策推進課長が開会を告げる。

2 審議事項（政策推進会議メンバーはメンバーと表記する。）

<交通政策について>

櫻井共生社会推進課主事より、ふれあい号の現状と見直しについて説明を行い、福永都市計画課主任より、乗合デマンド交通導入の検証結果とデマンド交通の見直し案について説明を行った後、審議を行った。

○概要説明

<ふれあい号の現状と見直しについて>

ふれあい号利用者は年々減少傾向にある一方で、運行委託料については、人件費・燃料費の高騰等により年々増加しており、車両を更新する場合は、委託料がさらに増加することが見込まれる。

令和3年10月に実施したふれあい号の利用調査においては、利用者は高齢者が最も多く、次に障がい者通所施設の利用者が多いという結果となった。また、福祉センター及び第二福祉センターの利用者登録状況を分析した結果、福祉センターの場合は上宗岡・中宗岡在住の利用者が多く、第二福祉センターの場合は、柏町在住の利用者が多い結果となった。加えて、令和4年9月の1か月間において、同じ日に福祉センターと第二福祉センターの2施設を利用した利用者については34名であり、施設職員への聞き取り結果、2施設間をふれあい号のみで利用しているのは2名であった。

これらを踏まえ、担当課としては、ふれあい号を廃止するのが妥当と考えている。

<乗合デマンド交通導入の検証結果>

過去に乗合デマンド交通事業を実施していた三芳町及び交通事業者へのヒアリングを踏まえて、本市における乗合デマンド交通導入について検証を行った結果、コロナ禍においてタクシーの相乗りが敬遠される傾向があり、コロナ禍終息後における意識の改善が不透明な点、通常型のデマンド交通との併用が困難であるという交通事業者の意見がある点、1単位自治体レベルの市域で乗合デマンドを成立させることが困難であるという点等を踏まえて、乗合型の導入はせずに、現行のデマンド交通を維持するのが妥当と考えている。

<デマンド交通の見直し案>

令和2年2月のタクシー運賃改定と路線バスが通っていない地域への対応として、料金の見直しを検討している。

メンバー：デマンド交通において、タクシー料金が2,500円以上となるのは、どのような利用をした場合なのか。

担当部課：上宗岡3丁目から新座志木中央総合病院へ行った場合や、下宗岡から恵愛病院へ行った場合は2,500円以上となる。

メンバー：路線バスが通っていない地域を対象として、民間のバスを通すということは検討したか。

担当部課：民間バス事業者としては、採算性が見込めない場合は、新規に路線を通す考えはないと聞いている。

メンバー：担当課案のとおりふれあい号を廃止した場合、ふれあい号を利用している障がい者通所施設の利用者への代替策はあるのか。

担当部課：社会福祉協議会において代替策を検討していると聞いている。社会福祉協議会が代替策を実施する場合であっても、事業の準備に時間が掛かることが想定されるため、廃止する場合は一定程度の期間を確保したい。

メンバー：ふれあい号の利用者が減少傾向であり、運行に係る委託料が年々増加傾向であることを鑑みると、担当課案に賛成である。

○結論

ふれあい号は廃止、デマンド交通は料金の見直しを行う方向で引き続き調整を進めていく。

3 閉会

松田政策推進課長が閉会を告げる。

備考 会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。